

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2025.2.1
作成 高齢者支援センター	町田第2
作成者	大橋 彩子

1.開催日時	2025年1月30日	(木)	13:30	～	15:30
2.会場	藤の台北集会所				
3.主催センター	町田2				
4.参加人数	28				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 2人		<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 2人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 2人 (うち、医師 人)		<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者 1人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 2人		<input type="checkbox"/> 老人会 人		<input checked="" type="checkbox"/> 住民 14人
	<input checked="" type="checkbox"/> 町内会自治会 4人		<input type="checkbox"/> 警察 人		<input type="checkbox"/> 行政 人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (UR管理事務所相談員1名)				
6.開催テーマ	できることから始めよう～緊急時への備え～				
7.地域課題	<p>(1)課題設定の背景</p> <p>藤の台団地の高齢化率は60%を超え、高齢者単身世帯が多い。救急時搬送先で入院に必要な情報が分からずに、高齢者支援センターへの相談がある。また、高齢者宅ポストに新聞が溜まるなど、新聞社や団地の管理事務所が困惑し警察を呼んで室内の安否の確認をしたケースがあった。</p> <p>(2)検討した地域課題</p> <p>いつ起こるか分からない救急搬送時に、住民が自分自身の必要な情報を救急隊員に伝える準備ができていない。</p>				
8.会議の内容	<p>1.開会のあいさつ・主旨説明</p> <p>2.藤の台で起きている事 (町田第2高齢者支援センター・高齢者ご家族・民生委員から講話)</p> <p>3.町田市の救急車の話 救急隊員の活動について (東京消防庁町田消防署より講話)</p> <p>4.グループワーク (緊急時に必要な備えとは・緊急時に立ち会うことになったら何ができるか)</p> <p>5.グループから発表</p> <p>6.自治会長より総評</p> <p>7.救急医療情報キットの紹介(医療と介護の連携支援センター佐川センター長)</p> <p>8.救急医療情報キット作成(20名が作成、2名が知人の分も持ち帰った。)</p>				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>参加者の多くが「先の事」と考えており緊急時の備えをしていなかった。参加者からは「移動時間、搬送先の選定など多くの過程があり、医療機関に搬送まで時間がかかると分かった。」「速やか必要な情報を救急隊員に伝える必要があると分かった。」「作るのが難しい人は緊急医療情報キットに限らず、まずは紙やホワイトボードで情報を掲示するでもいいと思う。」「家族へ希望を伝えておくことも有効。」と声がかれた。会議後、藤の台団地管理事務所、訪問診療事業所、自主グループで緊急情報医療キット作成会が決まった。住民に意識と行動の変容が生じている。今後は対象を拡げ、自主グループや町トレ、町会などのグループへ緊急時の備えについて啓発をしていく。</p>				
10.その他					

医療と介護の連携支援センター 確認日

2月 1日